学校だより
北の子通信
秦野市立
北小学校
６月号
令和７年
６月６日

自主的に学びたくなる授業づくり

北小学校で私たちが目指している子どもの姿は、「学習に一生懸命取り組む姿」です。

学習に一生懸命取り組む姿とは、①姿勢よく自分事として話を聴き、②これまでの経験や知識と照らし合わせて考え、③相手や場に応じて、分かりやすく伝えることです。そのために私たちは、子どもたちが自らに学びたくなる仕組みや仕掛け、そして必然を考え続けて授業を創っていくことを大切にしています。先生が４０分間話してばかりいる授業は良いとは言えないことになります。聴く・考える・伝える時間の保障を心がけ、子どもたちと向き合う時間を大切にしているところです。

５月29日（木）には、北小学校の子どもたちの学ぶ姿や先生方の学ばせる姿が大変よいとの情報をつかんでくださり、高橋市長、佐藤教育長らが授業の様子をご視察されました。校長も 4年目にして初めてのドキドキ経験となりましたが、子どもたちは見事なまでにいつも通りでした！「子どもたちをもっと見たかった」や「清掃ボランティアの保護者がたくさんいらしていて感激した」と子どもたちの学ぶ姿はもとより、保護者の皆さまにも最上級のお褒めの言葉を頂きました。子どもたちと保護者の皆さまには感謝しかありません。ありがとうございました。

実は、なぜ視察が北小学校だったかと言うと、ICT関連の利用率が全国平均以上であり、高学年が利用している学習AI アプリ「キュビナ」の活用率も市内平均を大きく超え、文科省GIGAStuDX推進チームを招聘し講義等を受け、授業支援クラウド「ロイロノート」の全学年積極活用等が評価されたからです。今後、横浜国立大学附属鎌倉小学校教諭を講師に招き（予定）さらなる授業力向上を目指していきたいと思います。次回は学び続け、走り続ける北小の校内研究について紹介したいと思います。今後も北っ子のために学び続ける先生方にもご期待ください。

秦野市教育研究所が進めている読書スタンプラリー「読書の森」に継続的に取り組んでいます。デジタル教育だけでなく、アナログな教育にも全力で取り組んでいきたいです。

全校対象「読書の森」４/５月認定者（20 冊読んで一言感想を書き連ねる毎に認定証が頂けます）

２年生　　６名のみなさん　すばらしいです。（HP 上ではお名前は控えます）